

第45回ブラッシュアップ研修会 報告

	日時	場所	テーマ
第45回	2026/3/15 13:30～16:00	かながわ労働プラザ 第4会議室	<p>1. 学生フォーミュラ活動における成果と今後の取組</p> <p>阿部結衣 経営学部経営学科2年 安達円香 経営学部経営学科1年 榎本大智 都市科学部都市社会共生学科1年 Altangerel Amirlan 経済学部経営学科1年</p> <p>2. Robo+ism 2025年度活動報告</p> <p>飯島悠太郎 理工学部2年 機械工学EP 池上雄大 理工学部2年 機械工学EP</p> <p>3. 学生ロケット制作サークルCOREの活動報告</p> <p>田村 彩絢 理工学部 機械工学EP 照井 諒 理工学部 物理工学EP 伊藤 湊 理工学部 化学応用EP 清野 晃人 東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科</p>

研修会講演概要

研修会参加者：19名 懇親会参加者：18名

学生フォーミュラ活動における成果と今後の取組	Robo+ism 2025年度活動報告	学生ロケット制作サークルCOREの活動報告
<p>2003年に発足、2019年まではガソリン車、最高2位獲得など強豪校であったが、コロナ禍以降、EVへチェンジして活動を開始。2024年は動画を持って行くことができたが、安全性で車を走らせることができなかった。2025年度は7位/25チーム中となりEVで強豪校になりたいと考えている。毎年車を最初から作らなくてはならないため費用は、300～400万円必要。その他為、スポンサーを探すため、デザインレビューを実施している。(部員は20名)</p> <p>2025年の結果を出せた要因は、活動目的の浸透ができたこと、部員が増えたこと、OB/OGの継続的な交流とマネジメント班の復活と考える。課題として車両の耐久性、コア技術の引継ぎが上手くできていない事と費用の増大がある。活動目標として「強い横国を創る」を掲げ、分析できるようにする、自分たちで理解して、強さを維持する。本質を理解して将来につなげる。中堅層チームで一位になる(全体の5位を目指す)他大学との交流。</p>	<p>2012年に発足、理工学部が多く機械が多いサークル</p> <p>活動部門 マシン班(設計、組立、加工)、制御回路班(プログラミング、3D LiDARなど)</p> <p>2025年に顧問の先生が交代を機に、体制の見直しを行った。これまで機械工学ばかりでアイデアが偏っていたが情報分野の学科が増えた、また女性部員も増えたことで活性化した。また、部室の整理整頓をおこなって人を中心とした環境を整えた。</p> <p>最近の成果は、関東夏ロボコン2025で1位から3位まで独占、NHK学生ロボコン2026 第1次ビデオ審査通過となっています。</p> <p>今後、教育体制、技術力、OB/OGとの繋がり、他大学との交流も増やしたい。特に費用面からスポンサーをお願いしたい。</p> <p>新人教育としては、関東夏大会に向けての新人教育をやっている。</p>	<p>COREとは、Challengers of Rockt Engineeringです。本サークルは、複数の大学が参加している、直接集まるのが難しいのでオンラインで活動がメインで年に3回打ち上げを行っている。エンジンの燃焼実験は年に10回ほど実施している。</p> <p>ロケットの打ち上げは8月能代宇宙イベントが最大で学生20団体くらい、社会人も参加し町おこしイベントとして開催されている。今回ここでの目標を「プロジェクト名Trace3776」として富士山の高さを目指したが、2959mとなった。</p> <p>11月に日本科学未来館で行われるロケット交流会に参加。12月に伊豆大島共同打ち上げ実験に新入生プロジェクトとしてカメラ搭載し回収するミッションを達成するロケットを作成したが、現地審査で機体のたわみ、シミュレーションの不具合で不合格となった。</p> <p>3月の伊豆大島共同打上実験でエアロスパイクノズル、新方式バルブシステムを搭載(学生ロケットでは初)で打ち上げを予定している。</p>



YNFP



Robo+ism



研修会の様子



CORE



徳記での懇親会

